

「目からウロコが落ちた」 ～正しく自分を用いていますか？～

使徒7：51～60、
8：1～3、9：1～20

ステパノのという人がいました。とても立派な人で多くの人に愛される人でした。神様の知恵によってユダヤ人の中で、イエス様の証をして、ユダヤの人たちがしてきた悪いことを指摘しました。そうなのでユダヤ人達はステパノを非難しました。「使徒 7:54人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ぎしりした。心をノコギリで切り裂いた。」という表現がされるほどパリサイ人達は頭にきました。「使徒 7:57～8人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。」そしてステパノは石打にされてしまい、最初の殉教者になりました。その後、パリサイ人は間違っしてしてしまったことに対して、「過ぎてしまったのはしょうがない!」「後戻りは出来ない!」と思い、さらにクリスチャンを迫害していきました。間違っことをしてしまっても、そのまま「変えることが出来ない」と思い、考え直せないことが多いのではないのでしょうか?「サウロ」という名前は最初のイスラエルの王様の「サウル」と同じ意味で「神を求めろ」という意味です。サウロのサウル王と違うところは、神様の声を聞いたときに、耳を傾けることが出来たところです。そして、サウロはパウロという名前になりました。パウロとは「わずか」という意味です。後にパウロは「ピリピ 3:8それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。」と言うまでになりました。人は悪くても素直に聞けなくなることが多いのですが、パウロは「間違っている」という神様の言葉に耳を傾ける事が出来ました。そして「祈って貰いなさい」という言葉に従い、祈られて癒しを受け取ることが出来ました。「使徒 9:18するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。」問題に気付いたときに直す事が出来ますか?それともそのままですか?ステパノもパウロも熱心でした。しかし間違っているか、いないかによって大きな違いがあります。「明日やる」と思っていますか?そのような人はいつまで経ってもしない人です。

ウロコがあると「①正しく聞くことが出来ない」パウロが素直に祈られていなかったら、癒されていないでしょう。逆ギレしていませんか?石打にしていたユダヤの人は「耳を被って」石を投げました。正しいことを語られたら耳を被ってしまうのではないのでしょうか?語られていることに素直に耳を傾けることが大切です。

「②自分の為に相手を傷つける」パリサイ人は自分を守るために正しい人を責めました。相手を傷つけてしまいました。間違っことをしている人の行動は、間違っています。間違っていると相手を傷つけてしまいます。私たちは誤って勘違いしていることがあると思います。ウロコがあると責めてしまいます。

「③間違いに気が付かなくなる」ウロコがあると間違いが正されることがなく、間違っままになります。「使徒 9:13 - 14しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」

アナニヤもウロコがありました。サウロはひどい人だと神様に対して言っています。ウロコの原因は人の言葉や情報、経験です。私たちは情報を自分の事のように思ってしまいます。私たちの周りにはとても多くの情報があります。惑わされてはいけません。あなたは目にウロコを付けられていませんか?

ウロコが取れるとまっすぐな道を歩むことが出来ます。あなたはどこから来てどこに向かっているか知っていますか?その道をまっすぐに歩むために、ウロコが神様によって取り去られなくてはなりません。ウロコがなくなると正しいまっすぐな道を歩んでいきましょう。(要約者：渡辺将宏)